

## 煙火消費における斜め打揚げに係る ガイドライン

## III 関係資料等 煙火消費における斜め打揚げに係るガイドライン

## 煙火消費における斜め打揚げに係るガイドライン

埼玉県内における火薬類取締法施行規則第 56 条の 4 第 4 項第 5 号の規定による煙火の斜め打揚げ（打揚煙火の打揚筒を演出効果等の目的により、意図的に傾けて設置し消費すること）の運用は、このガイドラインによるものとする。

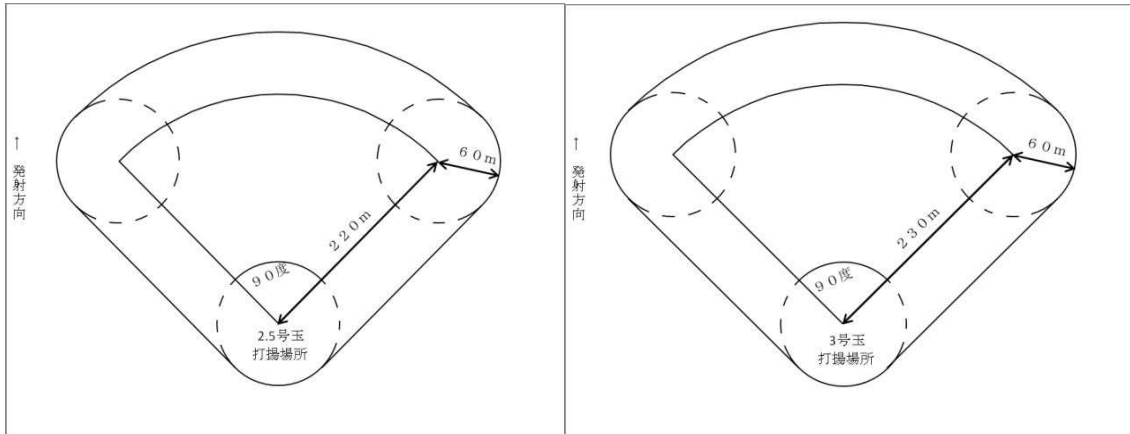
埼玉県内において斜め打揚げを適用する煙火の種類及び保安距離等は次のとおりとする。

- (1) 虎の尾（内殻の表面に厚く付着させた火薬が飛翔と同時に燃焼するものであって、上空で開発しないもので、内殻に詰物がないもの）
  - ① 煙火の斜め打揚げは、直径が 9cm 以下であり、打揚角度（仰角）は水平方向から 70～90 度の範囲に限る。
  - ② 表 1 で定める保安距離その他の保安対策を取ることとする。
- (2) 花束星（玉皮内に星を詰めたものであって、上空で開発しないもの）
  - ① 煙火の斜め打揚げは、直径が 7.5cm 以下であり、打揚角度（仰角）は水平方向から 30～90 度の範囲に限る。
  - ② 表 2 で定める保安距離その他の保安対策を取ることとする。

表 1 虎の尾に係る保安距離等

虎の尾の直径	保安距離（例示 1）
7.5cm 以下	打揚場所を円の中心、220m 以上を円の半径とし、打揚げ方向から左右 45 度以上（中心角 90 度以上）の扇形の外線から、埼玉県煙火消費技術基準（昭和 38 年 4 月 1 日。以下、「技術基準」という。）別表 1 の直径 9cm ポカ物における第 1 種～第 2 種の該当する保安距離を確保しなければならない。 また、扇形で囲まれる範囲についても保安距離とする。
7.5cm を超え 9cm 以下	打揚場所を円の中心、230m 以上を円の半径とし、打揚げ方向から左右 45 度以上（中心角 90 度以上）の扇形の外線から、技術基準別表 1 の直径 9cm ポカ物における第 1 種～第 2 種の該当する保安距離を確保しなければならない。 また、扇形で囲まれる範囲についても保安距離とする。
その他の保安対策	
(1) 打揚火薬量は、「煙火の消費保安基準（社）日本煙火協会」を標準とする。 (2) 打揚筒は、傾斜地を避け平坦な場所に設置し、湖、河川の安全な方向へ向け、人家、観客席に向けて打たないこと。 (3) 打揚げの衝撃で打揚筒の方向が変化しないよう、十分な強度を有する材料で強固に固定すること。砂袋のみによる固定は禁止とする。 (4) 打揚げた煙火の軌道上に障害物がないこと。	

III 関係資料等 煙火消費における斜め打揚げに係るガイドライン



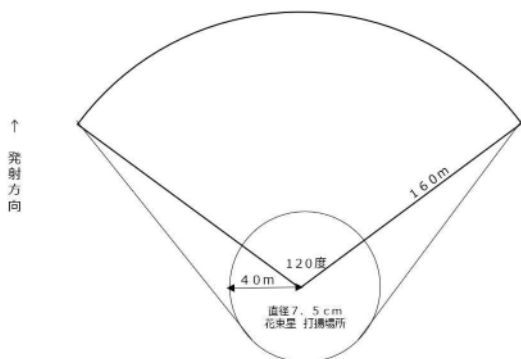
(例示 1-1) 第 2 種消費場所の 2.5 号玉

(例示 1-2) 第 2 種消費場所の 3 号玉

表 2 虎の尾に係る保安距離等

花束星の直径	保安距離 (例示 2)				
7.5cm 以下	次に掲げる①、②、③に該当する範囲を保安距離とする。 ① 打揚場所を円の中心、160m 以上を円の半径とし、打揚げ方向から左右 60 度以上 (中心角 120 度以上) の扇形で囲われる範囲 ② 打揚場所から、技術基準別表 1 に規定する直径 7.5cm ポカ物における第 1 種～第 2 種に該当する範囲 ③ ①で規定する扇形の円弧の両端と、②で規定する円を結ぶ接線で囲まれる範囲 (ただし、当該接線は①で規定する扇形の円弧の両端と、②で規定する円上の接点を結ぶ範囲に限る。)				
その他の保安対策					
(1) 使用する花束星は、以下の内容とする。					
星の種類	星 1 粒の直径	星 1 粒の重さ	玉皮内の星の粒数	玉皮の外径	花束星全体の重さ
紅星 (球状)	15mm 以下	2.5g 程度	40 個程度	70mm 程度	150g 程度
(2) 打揚火薬量及び打揚筒の仕様は、「煙火の消費保安基準 (社) 日本煙火協会」を標準とする。					
(3) 打揚筒は、傾斜地を避け平坦な場所に設置し、湖、河川の安全な方向へ向け、人家、観客席に向けて打たないこと。					
(4) 打揚げの衝撃で打揚筒の方向が変化しないよう、十分な強度を有する材料で強固に固定すること。砂袋のみによる固定は禁止とする。					
(5) 打揚げた煙火の軌道の上に障害物がないこと。					

III 関係資料等 煙火消費における斜め打揚げに係るガイドライン



(例示2) 第2種消費場所の直径7.5cm花束星

備考1 風等の影響により上述の内容を遵守するだけでは保安確保が図れないと認められるときは、消費許可の前後にかかわらず、十分な保安対策の追加（打揚げの中止を含む。）が必要な場合がある。

備考2 打揚筒固定の例

打揚筒には、打揚げの反作用により水平方向の力が加わるため、杭等で地面に強く固着させること。（固着とは、地面と一体の構造とすることであり、砂袋を置くことは含まれない。）

